

第 29 回馬の絵作品展 審査講評

審査委員長 齊藤 隆博

今年も全国各地から熱意溢れる作品をありがとうございました。絵は何をどのように描くかが大切ですが、皆さんの作品はどれも対象となる馬をしっかり見つめ、自分なりの表現方法で一生懸命取り組んでいる姿が伺えるような作品ばかりでした。また、馬の絵を描く時間の中で新たなものに気づいたり、考えて反省することは絵を深めていくために重要な要素になります。自分の乗馬体験や大きな馬と触れ合う様子を描いた、ほほえましい作品には心が和みました。年々新しい技法に積極的に挑戦するなど、表現方法が多様化してきました。中でも、賞に入った作品は馬をどう表現するかの視点がはっきりしていて、大胆な構図や構成、色彩の工夫がなされ、作者の感動した気持ちがよく伝わってくるものでした。次年度も皆さんの熱い思いを込めた作品を多数お待ちしております。